

## I 平成26年度柏市障害児等療育支援事業報告書

### 1. はじめに

### 2. 平成26年度事業の実施

#### (1) コーディネート支援、巡回相談及び研修

##### ① コーディネート支援

- A. 早期支援担当者会議への参加と巡回関係者会議の座長
- B. 機関のコーディネート
- C. 千葉県療育支援コーディネーター連絡協議会への参加
- D. ようこそ“お母さんの勉強会”

##### ② 巡回相談

- A. 巡回相談を利用した施設
- B. 巡回相談に参加した機関
- C. アンケートの実施
- D. 巡回事業の成果と課題

##### ③ 幼児支援のための研修会

##### ④ その他の研修

#### (2) 療育相談支援

## 1. はじめに

柏市障害児等療育支援事業（以下、「本事業」という。）は、柏市が中核市になった平成20年度から、柏市が社会福祉法人青葉会（以下、「当法人」という。）、社会福祉法人桐友学園及び社会福祉法人柏光会の3法人に事業を委託し、「コーディネート支援」、「施設支援」、「外来療育相談支援」及び「訪問療育相談支援」を実施するものである。本事業は創設に当たり、柏市発達障害者支援体制整備事業（平成17年度～19年度）の幼稚園等巡回相談を継承しており、施設支援としての官民チームによる巡回相談とそのコーディネートを規定している。

上記の3法人のうち当法人がコーディネート支援の委託を受けており、発達障害支援室シャルに療育支援コーディネーターを配置している。柏市の巡回相談の特徴は、官民の枠を越えて関係機関が連携して多職種チームで出向く点にある。療育支援コーディネーターが関係機関の多職種チームをつなぐ役割を担い、施設支援として実施している。その成果は、第四次千葉県障害者計画（平成21年1月策定）及び第五次千葉県障害者計画（平成27年3月策定）の障害児施策の重要な柱として取り入れられる等、柏市が千葉県の障害児支援施策を牽引しているとも言える。

ここでは、主として、発達障害支援室シャルが平成26年度に実施した事業について報告する。

## 2. 平成26年度事業の実施

平成26年度の本事業の実施件数を表1に示す。この他にも、報告義務のない電話による相談も多数実施している。

表1 平成26年度柏市障害児等療育支援事業の件数（発達障害支援室シャル実施分のみ）

月	コーディネート支援	施設支援	外来療育相談支援	訪問療育相談支援
4	42	5	30	2
5	41	14	24	1
6	39	24	24	0
7	44	16	47	1
8	32	6	50	0
9	40	15	29	0
10	43	12	32	0
11	35	21	28	0
12	36	8	22	0
1	37	16	20	1
2	38	27	22	0
3	45	12	25	0
計	472	176	353	5

## （１）コーディネート支援、巡回相談及び研修

### ①コーディネート支援

#### A. 早期支援担当者会議への参加と巡回関係者会議の座長

療育支援コーディネーターは、柏市障害のある子どもの支援連絡会運営要領に基づき、柏市自立支援協議会こども部会の早期支援担当者会議に毎月参加している。そのうち、年２回の幼稚園、保育園、こどもルーム等への巡回相談に関する会議では座長を務めた（４月、２月）。巡回相談に関する会議では、関係する各機関の担当者及び早期支援担当者会議委員が参加し、巡回相談の制度的位置づけの確認や課題の共有と討議を行うとともに、平成２４年度に段階的に開始し平成２６年度に完全実施となった幼稚園・保育園の巡回相談一体化の状況について検討した。

#### B. 機関のコーディネート

巡回相談及びその他の施設支援に関して、療育支援コーディネーターは以下の業務を行った。

- ・ 巡回相談希望園及び巡回希望日の取りまとめ、年間スケジュール作成
- ・ 巡回相談員の配置
- ・ 対象児について園からの情報の取りまとめ、巡回相談員への通知
- ・ 巡回相談当日の観察前打ち合わせ及び観察後のカンファレンスのコーディネート
- ・ 巡回相談員の相談記録の取りまとめ
- ・ 巡回相談利用園へのアンケートの実施
- ・ 緊急の支援要請への対応
- ・ 巡回相談関係者会議の開催
- ・ 幼稚園、保育園、こどもルームを対象とした研修の企画及び開催
- ・ 巡回相談員を対象とした研修の企画及び開催
- ・ 各種研修会への講師派遣のコーディネート

#### C. 千葉県療育支援コーディネーター連絡協議会への参加

千葉県健康福祉部障害福祉課が開催する千葉県療育支援コーディネーター連絡協議会に参加し、情報交換を通じた連携強化を図った。

県内でコーディネーターを配置している自治体は、柏市、佐倉市、習志野市、我孫子市及び香取海匠地域、合わせて１２市町である。

#### D. ようこそ“お母さんの勉強会”

「ようこそ“お母さんの勉強会”」（通称「ウェルネス・サロン」）は、柏市自立支援協議会こども部会で承認された、平成２４年度から開始している事業である。年間のテーマと講師を表２に示す。

本事業の施設支援（巡回相談）によって、幼稚園・保育園等での発達の気になるこどもたちへ

の支援と理解が充実していく中で、現場の保育者が保護者に障害等について説明することの難しさが解決できていないという課題があった。これに対して、母親の不安を受け止め、必要に応じて速やかに相談機関等につなげていく橋渡しを重要な役割の一つとして、発達の心配のあるこども子育てサロン「ようこそ“お母さんの勉強会”」が始まった。平成26年度は、当法人主催、こども発達センター協力の官民協力体制で、本事業のコーディネート支援を活用し、ウェルネス柏で年11回開催した（10月は台風のため中止）。

表2 平成26年度「ようこそ“お母さんの勉強会”」（毎月第1月曜日、10時～11時半）

月	テーマ	講師	※敬称略
4	健診で“様子をみましょう”と言われたら…	横内郁子（発達障害支援室シャル）	
5	うちの子、遅れがあるのかな…？	横内郁子（発達障害支援室シャル）	
6	ことばの遅い子のことばの育ち	高畑菜実子（発達障害支援室シャル）	
7	発達の気になるこどもとの親子遊び	渡邊光和美（ペガサス） 小塚有規子（リトルペガサス）	
8	わが子に合った就学先選び	山口祥子（柏市立教育研究所）	
9	わが子に合った就園先選び	斉藤裕久（こども発達センター）	
11	ことばの遅い子のことばの育ち	宮本洋子（こども発達センター）	
12	こどもの気持ちに寄り添う	新福麻由美（桐友学園）	
1	うちの子、遅れがあるのかな…？	横内郁子（発達障害支援室シャル）	
2	就園に向けて	荒田裕一（こども発達センター）	
3	就学に向けて	堤谷朋実（就学相談窓口）	

参加者延べ人数は61名であった。参加者の内訳はリピーターが多く、参加者実数は39名である。内訳は平成25年度からのリピーター6名、平成26年度のリピーター9人、新規20名、関係機関4名であった。

対象児の年齢は、参加者名簿で年齢が明らかな38名のうち、2歳児が最も多く13名（34%）、次いで1歳児と年少児がそれぞれ7名（18%）であった。男女比はおおよそ3：1であった（図1）。

対象児の所属は、参加者名簿で所属が明らかな38名のうち、保育園児と幼稚園児がそれぞれ6名であった。

また、何らかの療育を受けている児は24名と3分の2近くを占めた。療育先の内訳は、いちごルーム9名、民間の児童発達支援事業所9名、キッズルームひまわり5名、等となっている（重複を含む。図2）。

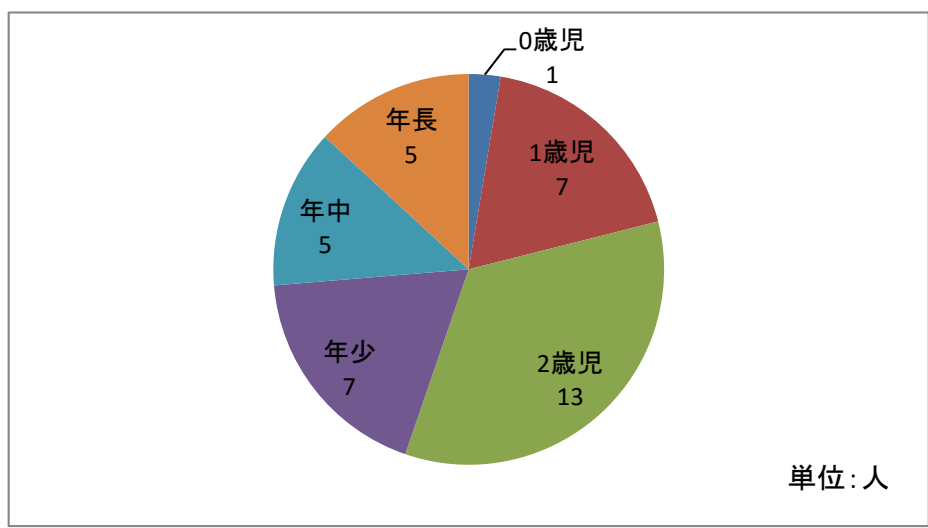


図1 平成26年度 「ようこそ“お母さんの勉強会”」対象児の年齢（38名中）

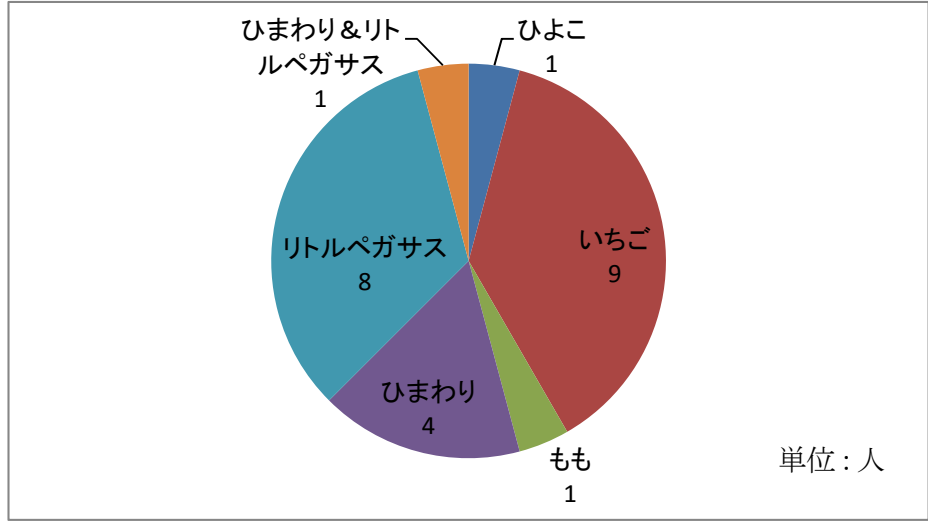


図2 平成26年度 「ようこそ“お母さんの勉強会”」対象児の療育先（24名中）

参加者のアンケートでは、「お母さんたちのお話を聞いてとても参考になり、焦らないでじっくり関わっていきたいと思います。今日のように皆で話し合う場があることを望みます。」「どこに相談していいのか困っていたことを相談できて良かったです。」「今後の関わり方の指針が分かったので良かった。」「今の気持ちや悩みを話せてスッキリしました。まだ育児をするのに不安はありますが、今日のお話を思い出して子育てしていけそうです。」「同じような悩みをもつママの話や、具体的なアドバイスも聞けて、気持ちが明るくなった。」等の記述があった。参加者の数は少ないものの、こどもの支援だけではなく、同時に母親の支援の役割も果たしていたと考えられる。

一方で、「ようこそ“お母さんの勉強会”」が始まった平成24年度からの3年間で、巡回相談の利用園からの紹介で母親が参加したケースは1件のみであった。この取り組みの当初の目的であった、発達の気になるこどもを巡回相談の利用園から相談機関等につなぐための橋渡しとし

ての役割は、結果として果たしていなかったと言える。これは、巡回相談の積み重ね等を通して、園の保育者の機関連携に対する意識とスキルが一層向上し、保護者に直接相談機関等を紹介して繋がるケースが増えたためと思われる。

また、対象児の6割以上が何らかの療育を受けており、その半数以上がこども発達センターの支援を利用している。その保護者の支援は、一次的には当該の療育機関が担うことが望ましいと考える。

「ようこそ“お母さんの勉強会”」を通じて少数ながら早期発見、早期支援に結びつくケースもあること、参加者のアンケートからは今後もこの取り組みを続けてほしいという要望が多いこと、さらに療育機関による保護者支援が十分整っているとは言えない現状を考えると、この取り組みは当初の目的とは違う部分で意義のあるものであったと思われる。しかし、参加者の属性に関する上記の実態を踏まえると、目的をどう設定し、どこが主催し、どのように広報するべきかについて再検討が必要である。そのため、当法人が主催して行う「ようこそ“お母さんの勉強会”」は平成26年度をもっていったん終了することとした。ただし、発達の気になるこどもの保護者に対する支援を充実させていく必要性が、この取り組みを通じて改めて感じられた。「ようこそ“お母さんの勉強会”」が担っていた役割を引き継ぐ体制を、早期支援担当者会議等の場で検討していく。

## ②巡回相談

### A. 巡回相談を利用した施設

平成26年度は、73か所の施設に対して巡回相談を実施した。巡回先の施設は、幼稚園が市内33園中21園、私立保育園は28園中17園、平成22年度の2学期から始まったこどもルームは41ルーム中12ルームである。さらに、平成26年度に幼稚園・保育園の巡回相談が完全一体化されたことにより、公立保育園23園全園が対象となっている（表3）。巡回相談を利用した幼稚園等の一覧を表4に示す。

幼稚園及び保育園には1園につき年最大3回、こどもルームには要請に応じて出向いている。巡回相談の延べ回数は183回であった。

表3 巡回相談の利用施設数の推移（発達障害支援室シャル実施分のみ）

年度	私立幼稚園	公立幼稚園	私立保育園	公立保育園	こどもルーム	計
19	4	1	0	1	0	6
20	16	1	1	0	0	18
21	15	-	3	0	0	18
22	18	-	1	0	8	27
23	16	-	2	0	14	32
24	14	-	6	5	5	30
25	19	-	7	15	4	45
26	21	-	17	23	12	73

（注1）平成19年度は、柏市発達障害者支援体制整備事業によるモデル実施の実績である。

（注2）平成20年度以降の件数は、発達障害支援室シャルが実施した施設支援として市に報告したものである。

表4 平成26年度 巡回相談を利用した施設

幼稚園	公立保育園	民間保育園	こどもルーム
風早幼稚園	市内23園全園	あいみ保育園	旭東小こどもルーム
柏幼稚園		ヴィヴァン保育園	柏一小こどもルーム
柏こぼと幼稚園		柏保育園	柏六小こどもルーム
柏ひがし幼稚園		柏しこだの森保育園	柏七小こどもルーム
柏みどり幼稚園		柏の葉キャンパス保育園	柏八小こどもルーム
くりの木幼稚園		柏みどり保育園	酒井根小こどもルーム
くるみ幼稚園		北柏駅前保育園わらび	高田小こどもルーム
さかいね幼稚園		巻石堂さくら保育園	高柳小こどもルーム
沼南幼稚園		咲保育園	高柳西小こどもルーム
すみれ幼稚園		とばり保育園	手賀西小こどもルーム
第二ますお幼稚園		豊四季台わらび保育園	富勢こどもルーム
手賀の丘幼稚園		ニチイキッズ柏保育園	松葉二小こどもルーム
とみせ幼稚園		日生かしわ保育園ひびき	
豊四季幼稚園		ひかり隣保館保育園	
ホザナ幼稚園		みなみ高柳保育園	
ますお幼稚園		花の井保育園	
松葉幼稚園		吉野沢保育園	
みくに幼稚園			
南柏幼稚園			
吉田幼稚園			
麗澤幼稚園			

## B. 巡回相談に参加した機関

参加機関と従事者の延べ人数を表5に示す。

表5 巡回相談に従事した関係者の延べ人数（平成23～26年度）

機関		23年度	24年度	25年度	26年度
療育支援コーディネーター		75人・回	90人・回	99人・回	133人・回
関係機関	社会福祉法人青葉会（民間）	83人・回	83人・回	116人・回	115人・回
	社会福祉法人桐友学園（民間）	9人・回	9人・回	12人・回	25人・回
	社会福祉法人柏光会（民間）	16人・回	16人・回	4人・回	8人・回
	こども発達センター（公設）	8人・回	8人・回	54人・回	76人・回
協力機関	柏特別支援学校	24人・回	24人・回	18人・回	17人・回
	柏市保健所	14人・回	14人・回	36人・回	30人・回
	柏市立教育研究所	7人・回	7人・回	5人・回	4人・回
	千葉県発達障害者支援センター	7人・回	7人・回	0人・回	0人・回
	CAS（東葛飾）	7人・回	7人・回	0人・回	0人・回
合 計		243人・回	291人・回	344人・回	408人・回

（注）網掛け表示が、柏市障害児等療育支援事業による施設支援（巡回相談）事業である。

## C. アンケートの実施

平成26年度第2回巡回相談の利用園57園にアンケートを実施した。アンケートは、管理職（園長、副園長、主任等）を対象としたものと、対象児の担任の保育者を対象としたものをそれぞれ作成し、支援内容の適切さや巡回相談が役に立ったこと等について尋ねた。平成27年1月末までに49園から回答があった（回収率86.0%）。園によっては複数の先生より回答があり、管理職は55名、担任保育士は155名から回答をいただいた。

以下に主な結果を示す（自由記述は資料参照）。

表6 回答者

	管理職	担任	合計
幼稚園	20	56	76
公立保育園	23	77	100
民間保育園	12	22	34
合計	55	155	210

表7 担任の保育者経験年数

	5年以下	6～10年	11～20年	21年以上	合計
幼稚園	27	16	13	0	56
	48.2%	28.6%	23.2%	0.0%	100.0%
公立保育園	10	18	19	30	77
	13.0%	23.4%	24.7%	39.0%	100.0%
民間保育園	4	6	10	2	22
	18.2%	27.3%	45.5%	9.1%	100.0%
合計	41	40	42	32	155



表8 巡回相談の内容に対する評価

		あてはまる	やや あてはまる	どちらとも いえない	あまり あてはまら ない	あてはまら ない	評定点平均
1) 相談したか ったことにつ いて相談できた	管理職	41	14	0	0	0	4.75
	担任	85	63	4	0	0	4.53
2) こどもに対 する相談員のと らえ方について 納得できた	管理職	44	11	0	0	0	4.80
	担任	116	38	1	0	0	4.74
3) こどもへの 対応の助言につ いて納得できた	管理職	41	14	0	0	0	4.75
	担任	105	47	3	0	0	4.66
4) 園の先生の 思いを相談員に 理解してもらえ た	管理職	41	13	0	0	0	4.76
	担任	104	47	4	0	0	4.65

※ 「あてはまる」5点～「あてはまらない」1点の5段階評定

※ 網掛け：管理職と担任の間に有意な差がある

1)  $t=2.863$ ,  $p<.01$

表9 巡回相談が役に立ったこと

		あてはまる	やや あてはまる	どちらとも いえない	あまり あてはまら ない	あてはまら ない	評定点平均
1) こどもの様子を整理して考える参考になった	管理職	44	10	1	0	0	4.78
	担任	128	24	1	0	0	4.73
2) こどもへのこれまでの対応が適切だったと確認できた	管理職	23	31	1	0	0	4.40
	担任	37	95	20	1	0	4.10
3) こどもへの新しい対応のしかたを考える参考になった	管理職	43	11	1	0	0	4.76
	担任	109	40	3	1	0	4.68
4) 保護者への対応のしかたを考える参考になった	管理職	29	23	3	0	0	4.47
	担任	74	48	26	5	0	4.25
5) 関係機関との連携のしかたが分かった	管理職	40	12	3	0	0	4.67
	担任	54	51	40	5	3	3.97
6) 疑問や心配を話し合っ、気持ち楽になった	管理職	29	22	3	1	0	4.44
	担任	79	61	13	1	0	4.42

※ 「あてはまる」5点～「あてはまらない」1点の5段階評定

※ 網掛け：管理職と担任の間に有意な差がある項目。

2)  $t=3.189, p<.01$     2)  $t=2.102, p<.05$     5)  $t=6.399, p<.01$

表 10 担任「こどもへのこれまでの対応が適切だったと確認できた」

－保育者経験年数による比較－

保育者経験年数	評定点平均
5 年以下 ( $n=41$ )	3.85
6～10 年 ( $n=39$ )	4.15
11～20 年 ( $n=41$ )	4.20
21 年以上 ( $n=32$ )	4.22

$F(3,149)=3.030, p<.05$

表 11 担任「保護者への対応のしかたを考える参考になった」

－保育者経験年数による比較－

保育者経験年数	評定点平均
5 年以下 ( $n=41$ )	4.41
6～10 年 ( $n=38$ )	4.00
11～20 年 ( $n=42$ )	4.10
21 年以上 ( $n=32$ )	4.53

$F(3,149)=3.369, p<.05$

表 8 より、巡回相談の内容に対しては、全体として肯定的な評価をいただいていると言える。

「1) 相談しなかったことについて相談できた」の項目は管理職と担任の間に有意な差があり、管理職の評定の方が高くなっている。これについては、巡回相談の場での印象から、担任は気になるこども個人について話したり聞いたりしたい気持ちが大きく、限られた時間の中で十分に相談できなかった思いをもつ場合があると思われる。これに対して管理職は、相談の対象となっているこども個人の詳細よりも特性の理解と対応の仕方を巡回相談員の助言から全体としてつかみ、保育の参考として受け取ってくださっていると感じる。施設支援としての巡回相談では、助言が後者のように捉えられ役立つことが目標となる。担任に対してもそのような受け取りをしていただけのように、助言の伝え方に一層の配慮をしていく必要がある。

巡回相談においては、こどもの理解と対応に関する助言、保護者対応に関する助言、関係機関との連携に関する助言の 3 つを支援の柱と考えている。また、それを通じて先生方の不安やストレスが軽減されることを目指している。巡回相談がどのように役に立ったかについての表 9 の結果からは、これらの目標が全体としてある程度達成されていることがうかがわれる。

表 7 より、園の種別によって、担任保育者の経験年数の人数構成に大きな違いがあることが分かる。公立保育園では経験 21 年以上が 4 割近いのに対して、民間保育園では 1 割未満、幼稚園にはいない。一方、幼稚園では 5 年未満が半数近くを占める。表 10 及び表 11 では、巡回相談がどのような点で役に立ったかに関する項目の評定点を、担任の保育経験年数により群分けして

比較している。表10からは、経験年数が5年以下の保育者はより経験年数が多い保育者に比べて、自身のこども対応の確認について低い評定をする傾向が見られる。保育経験を積むことによって、保育者の気になるこどもへの対応の引き出しが増え、それを確認するという観点で巡回相談を利用しているのかもしれない。反対に、保育経験が浅い保育者は、気になるこどもの見方や対応の引き出しがまだ少なく、巡回相談がそれを増やす機会になっているのではないか。また、表11からは、巡回相談の助言が保護者対応の参考になったと考える程度が、経験年数5年未満と21年以上の群で他の群より高くなっている。これは、保育経験が浅い保育者はこども支援についても保護者対応についても経験やスキルが少なく、どのような側面の助言も「勉強になる」のだと思われる。ある程度の保育経験を積むと、保護者対応のスキルが身についていたり、保護者には管理職が対応にあたる部分も多いため担任の役割意識としてこども支援の比重が大きくなったりすることが考えられ、保護者対応に関する助言の有用性の評価が下がるのかもしれない。さらに保育経験を重ねベテランの域になると、こども支援だけでなく保護者対応にも自らあたる力量や周囲の期待が高まり、保護者支援に関する助言への関心が再び高まるのではないか。ここでは経験年数という切り口での比較で差がある項目の背景を推測しているが、他にも様々な要因との関連で、保育者によって巡回相談に求めるものや役立つ支援のあり方が異なると考えられる。そうしたことを踏まえて巡回相談にあたる必要がある。

#### D. 巡回事業の成果と課題

平成20年度に事業を開始して以来、巡回希望園が徐々に増え（表4）、巡回先へのアンケートでも概ね好評を頂いている（「C. アンケートの実施」及び資料参照）。これはそれぞれの専門分野を活かした巡回相談員の助言が有用なものと受け止められていることによると思われる。

巡回相談の利用園の増加に伴い、巡回先として、気になるこどもの理解や対応について巡回相談を通じて大きくスキルアップしている園もあり、一方でそうしたスキルを得る機会が未だ少ない園もある。また、民間園においてはそれぞれの教育や保育の方針もある。さらに、近年は民間の認可保育園の新設が増えており、保育の環境や職員の経験等の点で課題が感じられる園もある。このような園ごとの特性や事情を踏まえた上での支援が、巡回相談には求められる。そのためには、最も重要な専門性の一つとしてこどもの発達のアセスメントを的確に行う力量を大前提とし、その上に園の特性を把握すること、助言の内容と伝え方が園の特性に合ったものとなるように配慮すること、そうした配慮の中でも巡回相談がこどもの発達支援の役割を果たすことが必要である。こどもの育ちの環境も園の状況も多様化する中で、こども発達センター、保育運営課、地域健康づくり課等の関係機関とさらに緊密に連携を図って対応していくことも重要である。

平成25年度から、巡回相談員の資質向上を目的に、巡回相談員研修を年1回行っている。今年度はモデルケースについてのグループ討議を内容として8月に実施した。参加者からは「見立てと助言についてじっくり考えることができて勉強になった」「他の巡回相談員の見方や話し方が参考になった」「巡回相談員同士の交流の機会としても良かった」といった感想を頂き、有意

義な研修であったと受け止めている。

### ③幼児支援のための研修会

平成26年度も、幼稚園や保育園、こどもルームの職員のための「発達の気になる幼児支援研修会」を以下のとおり2回開催した。

前年度の報告書において、平成26年度は「療育、保育、教育、保健、相談、行政等、こどもの発達に関わる各領域をつなぐことを目指して、それぞれの業務を知る機会や課題意識を共有する機会を研修会等の形で提供していく」との方針を立てた。この方針に沿って、第1回は教育研究所、第2回はこども発達センターを取り上げ、これらの機関と園とをつなぐ機会を提供することを目的に研修会を企画運営した。

第1回（6月） 「就学について、教育研究所の先生をお招きして」

山口祥子氏・金岡幸江氏・堤谷朋実氏

第2回（11月） 「柏市こども発達センターの支援について」

宮本洋子氏、野辺玲子氏、岩堀美恵子氏、堺みのり氏、斉藤裕久氏

就学に関する心配は、巡回相談での園の主要な相談内容の一つであるが、支援の情報が園に十分に伝わっていない状況がある。そこで、第1回研修会は、柏市立教育研究所の3氏に講師を依頼し、就学に関する支援の制度や内容について講義頂いた。市内の幼稚園、保育園から87名、関係機関から7名の参加があった。

市内の幼稚園・保育園には、柏市こども発達センターを利用しているこどもが多数在籍しており、また園側がセンターの利用が望ましいのではないかと考えるケースも多い。しかし、センターで実際にどのような支援が行われているのかが外部から見えにくいと感じる。そこで、第2回研修会は、センターの5氏に講師を依頼し、利用までの流れや支援の目標・内容について講義頂いた。市内の幼稚園、保育園から81名、関係機関から9名の参加があった。

### ④その他の研修

発達障害や発達の気になる子どもの理解啓発のための講師として、次の研修会等に参加した。

- ・ 児童センター事業 子育てミニ講座 計6回
- ・ 柏市保育運営課 保育者研修 6月、7月
- ・ 柏市民生委員児童委員協議会 民生委員・児童委員研修会 11月
- ・ 市内民間保育園 園内研修 12月
- ・ 柏市こどもルーム指導員研修 1月

## （２）療育相談支援

当法人を利用した訪問療育相談及び外来療育相談（計３５８件）の内容は、幼児期の発達について、学齢期の学校生活・余暇活動・進学について、青年期や成人期の引きこもり・社会参加・就労について、等である。本人や家族による特性理解を深めて福祉サービス利用や病院受診につなげたり、福祉サービス利用が難しい状況の方にとって数少ない援助資源となったり、定期的な相談によって本人や家族の精神的な負担を軽減したりする役割を担っている。

支援の対象者の障害種別としては発達障害の割合が大きいが、精神障害のある方の相談も増えている。今後も人生の様々なステージにある様々な困難を抱える方に質の高い支援を提供できるよう、相談員のスキルアップを常に図っていく必要がある。また、適切なスーパーバイズを受ける、医療等の関係機関と必要に応じて連携するといった取り組みも重要であり、引き続き行っていく。

## Ⅱ 平成２７年度以降の障害児等療育支援事業について

### 1. コーディネート支援の取り組み

平成２６年度に、シャルが行ってきた幼稚園等の巡回相談と保育課が行ってきた公立保育園巡回相談が完全一体化され、すべてシャルのコーディネートで実施している。

公立保育園については保育運営課を通して全園への巡回を行い、私立園とこどもルームについては施設からの希望を受けて巡回を行っている。平成２６年度は、巡回相談の利用施設が５０超となると予想されたが、実績はこれをさらに上回って７３の施設であった。特に、私立保育園とこどもルームからの希望が大きく増加している（表４）。

私立保育園は新設園が増え、適切な保育の環境を整えていくにあたって巡回相談が役割を果たせる部分が大きいのと感じられる。また、こどもルームには発達や家庭環境に気がかりのある子どもが少なからず在籍し、物理的な環境も制約が大きく、そうした中で保育を行う指導員の支援が必要である。一方、幼稚園は、保育園やこどもルームと異なり所管する部署がなく、これらの施設よりも外部の目が入りにくく孤立しやすい。幼稚園からの巡回相談利用の希望に応えることはその点でも意義がある。

このように巡回希望園が増え続け、支援の必要性も高い状況に、シャルも関係機関も人員が限られている中でどのように対応していくかが課題である。この課題について、平成２６年度中に早期支援担当者会議等で関係機関と検討を行った。その結果、一園あたりの巡回相談利用回数を年最大３回から２回とし、一方で緊急の要請に柔軟に応じられる体制を整え、また園やこどもルームを対象とした研修をさらに充実させる方向で一致し、今後巡回相談の利用園に理解を求める予定である。

巡回相談が各園にとって支援の量的な縮小とならざるを得ない中で、支援の質をさらに向上させる努力も必要である。前年度の報告書でも平成２６年度の課題の一つとして質の向上を挙げており、そのために関係機関や協力機関とのさらなる連携強化や巡回相談員のスキルアップが必要としていた。連携強化については、表３に示すように巡回相談への参加人数が関係機関を中心に増加している。また、巡回相談の一体化の過程を通じて保育運営課とも目標を共有して話し合うことができている。この協力体制を今後も維持していけるよう、適切な情報共有や率直な意見交換を行っていききたい。巡回相談員のスキルアップについては、平成２５年度に初めて取り入れた巡回相談員研修を平成２６年度も実施した。この取り組みもケース検討を中心に引き続き行う予定である。また、発達を専門とはしない職種や若手から、巡回相談に従事した際に委託機関やこども発達センターの実践経験の長い専門職の助言に学ぶところが多いという声を頂いている。一方、ベテランの専門職からも、こどもの見立てや対応について他の巡回相談員の助言を聞くことで新たな見方を得る機会になるとの感想も頂く。利用園だけでなく参加した巡回相談員にも得るものがあつたと感じられ、それによって巡回相談員のスキルが上がり、巡回相談に積極的に参加する、といった好循環を目指していく。

その中で、療育支援コーディネーターは行政とも密に連携を図り、下記について取り組む。

- ・ 巡回相談にあたっては事前に利用園からの情報を整理し、事後に利用園及び巡回相談員からのフィードバックを得て、巡回相談員の専門性をさらに活かせるコーディネートを目指す。
- ・ 平成25年度及び平成26年度は、数値化できる項目により巡回相談の利用園にアンケート調査を実施し、客観的な評価を行う試みを行った。両年度とも概ね高い満足度が示され、巡回相談の一体化の過程を通して数値的には一定の評価を得られている。平成27年度は、「気になるこどもの様子」、「保育者の理解と対応」、「巡回相談員の助言」及び「その後の保育者の取り組みと変化」について捉え、支援のあり方に示唆を得ることを目的に質的な検討を行いたい。
- ・ 発達の気になるこどもが幼稚園や保育園に少なからず在籍している。こうしたこどもと保護者への対応に関して園を支援すると共に、必要な療育や保護者支援の受け皿を地域として整備する必要がある。巡回相談や早期支援担当者会議等の場を利用してこの課題に取り組む。
- ・ 発達の気になるこどもについて、幼稚園や保育園から小学校への支援のつながりが不十分なケースが少なくないことも課題である。今後は教育研究所とも連携して、早期支援担当者会議等で議論していく。

## 2. 平成27年度（予定）

次のとおり実施する予定である。

### （1）コーディネート支援及び施設支援

- ① 希望する一園あたり、最大年2回の巡回相談の実施
- ② 巡回相談の利用園に対するアンケート調査 11～12月
- ③ 柏市自立支援協議会こども部会の早期支援担当者会議における巡回相談関係者会議の開催（4月、2月）
- ④ 発達の気になる幼児支援研修会の開催（6月、11月）
- ⑤ 巡回相談員研修会の開催 8月
- ⑥ 千葉県療育支援コーディネーター連絡協議会への参加
- ⑦ 保育運営課研修会への講師派遣 7月
- ⑧ 幼稚園職員・保育園職員・こどもルーム指導員に対する研修会への講師派遣

### （2）外来療育相談支援

青葉会における外来療育相談支援の実施

### （3）訪問療育相談支援

青葉会における訪問療育相談支援の実施



### Ⅲ 資 料

#### 巡回相談の利用園に対するアンケート調査結果 自由記述

平成26年度第2回巡回相談の利用園57園にアンケートを実施した。アンケートは、管理職（園長、副園長、主任等）を対象としたものと、対象児の担任の保育者を対象としたものをそれぞれ作成し、支援内容の適切さや保育の中で困っていること等について尋ねた。平成27年1月末までに49園から回答があった（回収率86.0%）。園によっては複数の先生より回答があり、管理職は計55名、担任保育士は155名から回答をいただいた。

アンケートの自由記述を以下に示す。

（略）